

鶏肉情勢

令和5年11月24日 更新

全農チキンフーズ(株)

項目	内容
供給	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会の令和5年9月末実施)によると、9月の推計実績は処理羽数60,740千羽(前年比102.1%)、処理重量176.6千トン(同100.2%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.1%下方修正、処理重量は1.8%下方修正された。気温が高い日が続いたため、昨年よりも出荷体重が低かったとみられる。昨年のような台風被害もなく、育成は比較的順調であったが、暑さの影響で内臓類の質が悪く廃棄が多かったとのこと。 (2) 10月の計画は処理羽数、処理重量とも前年並みの見通しとなっている。処理羽数は中部地区と南九州地区で前年を下回る予想となっており、処理重量は関東地区・中部地区・南九州地区が前年を下回る予想となっている。 また、11月21日までに、6道県19事例、野鳥より鳥インフルエンザの発生が報告されている。今後、家きんへの拡大が懸念される。工場の人員不足については技能実習生が来日するようになったことで、少しずつ解消されており、加工品(切り身・手羽中ニツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の生産は徐々に回復していくと思われる。
	2. 輸入 (1) 財務省10月27日公表の貿易統計によると令和5年9月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲7.6千トンの48.4千トンで、国別ではブラジルが前月▲10.6千トンの31.3千トンでタイが+2.8千トンの15.5千トンとなり、ブラジルは前月より減少しタイは増加となった。前年同月の実績に対しては+1.6千トンとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、鳥インフルエンザによる輸入停止措置の影響によりブラジルからの輸入量減少が11月まで見込まれるため、10月が43.5千トン(前年比80.7%)、11月は39.3千トン(前年比78.9%)となっている。ただし、ブラジル産の国内在庫は前年より増加傾向となっており、12月には輸入量も回復することが予想されるため、年内は潤沢な状況が続くと思われる。タイ産についても引き続き安定した輸入量が予想される。今後の国産鶏肉への影響を注視したい。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から+0.4千トンの40.8千トンで、国別では中国が+0.5千トン、タイが▲0.2千トンとなった。前年同月の実績に対しては▲3.5千トンとなり、前月比は上回ったが前年比は下回る結果となった。タイの生産は引き続き安定しており、9月実績は増加となった。価格については依然として高騰しており、上昇傾向が予想される。外食についてはインバウンド需要等で回復しつつあり、中食・総菜向け等の引き合いも継続して強い状況である。 (3) 財務省が10月27日に公表した貿易統計によると9月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より17.6%下降し、鶏肉調整品は前年同月より2.1%上昇した。国別ではブラジル産の価格が321円/kg(前月比14円下げ)、タイ産が405円/kg(同8円高)となっている(国別平均価格)。前年比ではブラジルが下降し、タイが上昇した状況である。ブラジル産は一時輸入停止措置が解除された影響もあり、9月実績は下げ基調となっており、国内市場価格も下降傾向となっている。タイ産についても国内市場価格は下げ基調となっており、今後の国産鶏肉への影響を注視したい。
需要	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和5年9月の生鮮肉消費(購入)は数量4,049g(前年比94.0%)、金額6,275円(同99.9%)と、数量・金額とも前年を下回った。鶏肉は数量1,424g(同95.4%)・金額1,487円(同107.3%)・単価104.4円/100g(前年同月+11.5円)と、数量のみ前年を下回る結果となった。調理食品が金額12,278円(同106.1%)、外食が13,148円(同110.0%)となっている。生鮮品の購入量は相場高等の影響を受け牛・豚・鶏とも前年を下回る結果となった。調理食品においては光熱費の高騰や猛暑による調理敬遠が働き順調に推移している。外食においては、イベント開催の回復や、入国規制緩和による外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、コロナ前に戻りつつあると考えられる。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和5年10月の食品売上高は全店ベースで前年比105.9%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同105.0%、既存店ベースは同103.9%となった。また、畜産部門の売上高は約1,271.7億円で全店ベース同102.2%、既存店ベース同101.0%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、10月は暖かい日が続いたため、鍋ものの商材は伸び悩んだ模様。イベント需要の回復や、光熱費の高騰による調理敬遠を追い風に総菜部門が引き続き好調であったとのこと。畜産部門においては、精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉から豚肉・鶏肉に需要のシフトが続いている。牛肉は、相場高で苦戦。豚肉は国産の高騰が落ち着いたが、安価な小間切れ・挽肉が好調。相場の安定している鶏肉では値ごろなムネ肉が好調。ハムやソーセージなどの加工肉は回復傾向。節約志向の高まりにより買上点数は減少しているが、相場高による単価の上昇により売上高は前年を超えた状況が続いている。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和5年9月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比106.6%の4.7千トンとなった。うち国内品は同92.5%の3.5千トンと前年を下回り、輸入品については同190.8%の1.2千トンと前年を上回った。
在庫	1. 令和5年9月 (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推定期末在庫では国産30.0千トン(前年比116.3%・前月差▲2.0千トン)、輸入品132.5千トン(同109.3%・同▲0.8千トン)と合計で162.5千トン(同110.5%・同▲2.8千トン)となった。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、9月の出回り量は国産137.5千トン(前年比99.5%・前月差+5.4千トン)、輸入品49.2千トン(同105.2%・同▲3.0千トン)と合計で186.7千トン(同100.9%・同+2.4千トン)となった。10月以降の国産在庫については、夏場、凍結に回ったモモ肉の在庫が多いことや年末特殊品の在庫等により前年を上回ると予測する。輸入鶏肉については(独)農畜産業振興機構(ALIC)の予測では、入荷量は、ブラジルのサンタカタリーナ州において鳥インフルエンザが発生した影響により輸入量が減少することから、10月、11月は大幅に前年を下回ると予測されている。出回り量は前年をわずかに上回る予測であるが、9月末の国産品・輸入品の在庫が多かったことから、10月の期末在庫は前年同月をやや上回り、11月はわずかに下回ると予測する。
相場	1. 令和5年10月動向 (1) 令和5年10月の月平均相場は、モモ肉649円/kg(前月差+3円)・ムネ肉369円/kg(同▲5円)正肉合計で1,018円/2kgと前月を2円下回り、前年同月を55円下回った。モモ肉相場は月初634円、月末は658円となり(昨年は月初683円、月末706円)、前月に引き続き、前年の相場を下回った。 生産においては、10月当初は残暑が残り暑い日もあったが、日が経つにつれて気温も下がり、比較的順調に推移している。モモ肉においては、売り場の棚割り変更や特売の増加により動きが出てきた。ムネ肉は加工原料や安価な商品として、生鮮品・冷凍品とも販売は順調である。 相場はモモ肉は上げ基調に転じ、10月も引き続き高水準を維持した。
	2. 見通し (1) 11月の生産量は、前年並みの計画である。今年は暖冬の予測が出ており生産は順調に推移していくと思われる。ただ、現時点で6道県にて野鳥より鳥インフルエンザが発生していて、今年度も警戒が必要である。 朝晩の気温も下がり、売り場には鍋用スープ・つみれ等がならび鍋シーズンが到来している。モモ肉・モモ肉切身の売り場も広がり動きが出てきた。ムネ肉においても、鍋用つみれや加工品の原料として生鮮品・冷凍品とも引き続き順調に推移すると思われる。 以上のことから、モモ肉相場は上げの月平均670円、ムネ肉相場はもちあいの月平均370円と予測する。 (2) 10月20日、ブラジルのマット・グロッソ・ド・スール州で鳥インフルエンザの清浄性が確認され輸入停止措置が解除された。日本への輸出は少ないため影響は出なかった模様。 11月に入り、朝晩の気温も下がり、残暑が厳しい日もあるが、日中も過ごしやすくなってきた。11月12日以降は最高気温も20℃を切る予報が出ている。モモ肉相場も下げ止まり、冬場の需要期に向けて上昇していくと思われる。家庭では、これまでモモ肉を使っていた料理でも、安価なムネ肉を使用する傾向が出てきた。 今後も食品をはじめ様々な物価高騰による値上げが続くことから、節約志向が働き、他の畜種と比較すれば安価な鶏肉の販売は底堅く推移すると思われる。前年には及ばないが、鶏肉相場は引き続き高水準で推移していくと思われる。

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

	R4年累計		R5年9月推計実績		R5年10月計画		R5年11月計画		R5年12月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	774,648	100.1%	68,625	101.2%	69,825	100.8%	63,542	101.3%	69,100	101.1%
処理羽数	737,217	100.2%	60,740	102.1%	63,369	100.8%	63,028	102.3%	68,025	101.6%
処理重量	2,224.1	99.9%	176.6	100.2%	189.5	99.9%	190.1	100.4%	205.3	100.2%

※参考資料: (株)全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向 単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年4月	47.4	43.6	108.8	39.9	44.1	90.4	88.1	92.9	94.8	53.8	45.3
R5年5月	51.7	42.5	121.7	35.4	42.1	84.1	87.2	84.6	103.0	59.3	40.7
R5年6月	57.7	52.2	110.6	39.7	46.2	86.0	97.5	98.4	99.0	59.2	40.8
R5年7月	46.7	45.6	102.3	39.5	43.8	90.1	86.2	89.4	96.3	54.2	45.8
R5年8月	56.0	47.4	118.1	40.4	47.8	84.5	96.3	95.2	101.2	58.1	41.9
R5年9月	48.4	46.8	103.4	40.8	44.3	92.2	89.2	91.1	98.0	54.2	45.8

※参考資料: 財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向 単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年4月	1,572	1,512	104.0	1,566	1,368	114.5
R5年5月	1,485	1,476	100.6	1,530	1,403	109.1
R5年6月	1,455	1,433	101.5	1,492	1,375	108.5
R5年7月	1,361	1,439	94.6	1,422	1,345	105.7
R5年8月	1,363	1,372	99.3	1,411	1,309	107.8
R5年9月	1,424	1,492	95.4	1,487	1,386	107.3

※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

相場(年別・暦年) 単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954
R4年	662	348	1,010

在庫状況(推定) 単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年4月	27.5	31.3	87.9	119.5	116.3	102.8	147.1	147.6	99.6
R5年5月	29.3	31.2	94.2	127.5	115.7	110.2	156.8	146.9	106.8
R5年6月	28.6	30.5	93.7	133.6	119.1	112.2	162.2	149.6	108.5
R5年7月	30.6	28.9	106.0	129.6	121.1	107.0	160.2	150.0	106.8
R5年8月	32.0	28.5	112.3	133.3	121.2	110.0	165.3	149.7	110.4
R5年9月	30.0	25.8	116.3	132.5	121.2	109.3	162.5	147.1	110.5

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別) 単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R4年度平均	702	627	112.0	371	317	117.0	1,073	944	113.7
R5年7月	709	637	111.3	398	340	117.1	1,107	977	113.3
R5年8月	674	649	103.9	383	354	108.2	1,057	1,003	105.4
R5年9月	646	667	96.9	374	364	102.7	1,020	1,031	98.9
R5年10月	649	697	93.1	369	376	98.1	1,018	1,073	94.9
R5年11月	(670)	729	91.9	(370)	396	93.4	(1,040)	1,125	92.4
R5年12月	(710)	773	91.8	(380)	417	91.1	(1,090)	1,190	91.6

※()は見直し